

織物産業と現代アートが融合した、国内唯一の布の芸術祭 『FUJI TEXTILE WEEK 2025』

地域課題に挑み、伝統産業を再構築する、富士吉田発の地域再生モデル

FUJI TEXTILE WEEK とは・・・

FUJI TEXTILE WEEK 実行委員会は、山梨県富士吉田市において、第4回目となる布の芸術祭『FUJI TEXTILE WEEK 2025（フジテキスタイルウィーク）』を、2025年11月22日（土）から12月14日（日）までの日程で開催します。FUJI TEXTILE WEEK は、1,000年以上続く織物の産地である山梨県富士吉田市を舞台に、糸や布などに着想を得た芸術表現を通じて、まちの中心市街地活性化を目指して誕生したもので、織物産業と現代アートが融合した国内唯一のアートイベントです。メインコンテンツとなるアート展のほかに、アート初心者でも街歩きとともに楽しめるよう、ワークショップや多様なクリエイターとのコラボ企画も予定しています。



本イベントは、富士吉田市が直面する課題への解決策として、アプローチすることで、社会的な意義を生み出しています。

課題①：空き家問題 — 街の風景を蝕む「負の遺産」の増加

【課題の背景】

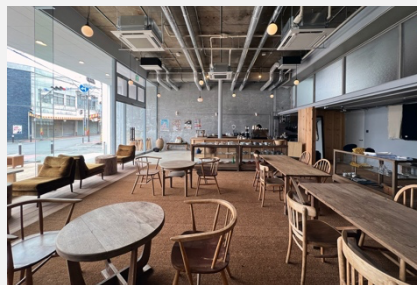
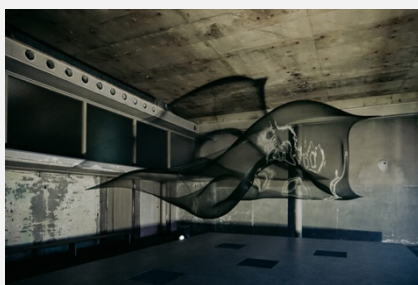
富士吉田市が位置する山梨県は、空き家率 20.4%で全国 4 位*¹ という深刻な状況にあります。富士吉田市も空き家率 13.8%*² と、依然として大きな課題です。空き家問題は、町の景観や治安の悪化だけでなく、所有者にとっても解決の難しいいわば「負の遺産」ともなります。

【解決策：アートイベントをきっかけとした、空き家再生の独自モデル】

『FUJI TEXTILE WEEK』は、織物産業にまつわる空き店舗や空き家を会場として活用します。使用にあたっては、地域の方々の協力を得て、清掃や片付けから始めることで、そしてイベントでの一時利用という条件を提示することで、所有者が抱える心理的なハードルを下げました。会場としての使用を契機として、その後リノベーションされ、商業施設として再利用されたり、他のイベントでも使用されるようになった事例が生まれており、空き家解消に貢献しています。

事例 ①旧スルガ銀行

1969年に駿河銀行の営業所として建設。80年代後半から自動車販売店や保険代理店として使われたが90年代からは空き店舗になっていた。FTW2021の際に1階をメイン会場として活用、その後改装され現在は「FabCafe Fuji」に。FTW2022の際には2階を会場として使用、その後改装され現在は「SARUYA HOSTEL KIKU」として活用されている。



事例 ②旧山叶工場

1872 年、瑞穂村下の水(現富士見 6 丁目)で金物業を開業。1916 年渡辺和吉商店とし、機織機や撚糸機を扱い金沢の絹織物用力織機津田駒工業の代理店となる。1950 年山叶商店に改組し、サッシなど建設部材や FANUC や MAKINO の工作機械も取り扱っていたが 2023 年 3 月廃業。FTW2023、2025 のメイン会場として活用。今も 1973 頃建設の建物内暖房用ボイラーの煙突が残る。



課題②：伝統産業の衰退 — 優れた技術を未来へ繋げられない危機

【課題の背景】

かつて隆盛を誇った富士吉田市の織物産業も、時代の変化と共に衰退し、若手の担い手も減少しました。伝統的な技術を守りつつ、新しい販路やデザインを見出せず、このままでは技術が途絶えてしまうという危機感が高まっていました。

【解決策：アートと連携した、伝統産業の国際的なブランド化】

FTW 2022 以降は海外在住の作家も参加し、国際的なネットワークを拡大。作家が市民を巻き込んだワークショップや街のリサーチ活動を行うことで、地域住民との国際交流も活発化しています。本イベントの国際的な取り組みは、オランダ大使館、フランス大使館、チェコ大使館の後援を得るなど、海外に向けて富士吉田の文化を発信する大きなきっかけとなっています。また、国内外の織物組合、台湾の街づくり会社からの視察も行われるなど、国内外からの注目度が年々高まっています。

課題③：オーバーツーリズム — 観光の恩恵が街全体に行き渡らない弊害

【課題の背景】

世界遺産「富士山」への観光客は多いものの、特定の場所に人が集中し、街全体に経済効果が行き渡らない「オーバーツーリズム」の弊害に直面していました。多くの観光客は「富士山を見て帰る」という目的で、街に滞在する時間が短く、消費が少ないため、地域経済への貢献度が低いという問題が顕在化していました。

【解決策：オフシーズン・街全体を舞台にした「回遊型」観光の創出】

『FUJI TEXTILE WEEK』は、11 月下旬～12 月というオフシーズンにイベントを開催することで、1 年を通した観光客誘致に寄与しています。アート作品を街全体に点在させることで、来場客の行動を変え、街全体に活気を生み出しました。これまでの 3 回の開催で来場者数は約 4 万人に達します。さらに、アート投資家、ギャラリスト、大使館関係者など 300 人以上の VIP 層を誘致し、質の高い観光客の獲得にも成功しています。

<INTERVIEW>

——なぜ FUJI TEXTILE WEEK を始めようと思ったのですか？

このイベントを始めたきっかけは、「街に賑わいを作りたい」という想いがあったからです。そして、富士吉田が誇る織物産業の未来に危機感を持ったことも、大きな理由でした。この街には世界に通用する素晴らしい技術がありますが、その魅力が十分に伝わっていない。このままでは伝統が途絶えてしまうかもしれないという危機感があったんです。そこでアートでこの状況を解決できないかと考えました。街全体を舞台にしたアートイベントを開催すれば、今まで街を素通りしていた方々にも、織物の文化や歴史に触れるきっかけを作ることができる。そうすることで、街に新しい人の流れを生み出し、お店に人が入り、結果として街の賑わいが生まれ、産業の活性化にも繋がっていくと思っています。

——どのような苦労がありましたか？

立ち上げ当初は、協力してくれる人を見つけるのに苦労しました。特に、長年使われていなかった空き家や工場を、アートの会場として使わせてもらうには、住民の方々の理解と信頼を得る必要がありました。何度も足を運び、このイベントが街にとってどれだけ大切かを語り続けました。今では、一緒に掃除や片付けを手伝ってくれる街の人たちが 200 名を超えるまでになり、地域全体でイベントを育てているという実感があります。

——イベントへの想いや今後の展望

私たちのビジョンは、FUJI TEXTILE WEEK を単なる一過性のイベントで終わらせることではありません。アートを通じて、この街のアイデンティティである『織物』を再定義し、空き家再生や観光客の質の向上といった課題を継続的に解決していくことです。この街に住む人たちが、自分たちの文化に誇りを持ち、未来に希望を持てるようになること。そして、この街が『アートと織物の街』として、世界から注目される存在になることが、私たちの最終的な目標です。」



FUJI TEXTILE WEEK 事務局長 八木 毅（やぎつよし）

株式会社 DOSO 代表／アートディレクター・企画プロデューサー 山梨県富士吉田市在住。2015 年より、築 80 年以上の町家を改修した宿泊施設「SARUYA」を立ち上げ、地域に根ざしたホスピタリティの場を運営している。2017 年、国内外のアーティストが長期滞在し制作活動を行える「Saruya Artist Residency」を開始、2022 年には、ものづくりと創造の拠点となるカフェ「FabCafe Fuji」を開業。2021 年より、織物産地・富士吉田を舞台にテキスタイルと現代芸術が交差する芸術祭「FUJI TEXTILE WEEK」を企画・主催。国内外のアーティストやデザイナーと地元の織物工場をつなぎ、新たな創造と国際的な文化交流を生み出している。

富士吉田市 担当者コメント

本市は、富士山の歴史と文化が色濃く残るまちであり、1,000 年以上の歴史を誇る織物の産地として栄えてきました。現在も織物文化には素晴らしい伝統が息づいています。とりわけ中心市街地は、かつて織物産業によって大いに賑わった地域であり、その歴史と文化を未来へと受け継ぎながら、新たな活力を生み出すことが私たちの大きな使命であると考えています。このような中、『FUJI TEXTILE WEEK』は、織物とアートを融合させるといふ、私たちにとって新しい挑戦でした。当初は戸惑いもありましたが、今ではこのイベントが、街の歴史とアイデンティティを再発見する大きなきっかけとなっています。国内外のアーティストが街に滞在し、市民と交流しながら作品を作り上げていく姿は、私たちに多くの感動と希望を与えてくれました。長年使われていなかった空き家が、アートの力で再び命を吹き込まれ、多くの人で賑わう様子は、まさに地方創生のモデルケースであると確信しています。2025 年も、このイベントがさらに多くの人々に愛され、富士吉田市の未来を拓く大きな力となることを期待しています。

山梨県富士吉田市役所 経済環境部 富士山課課長

勝俣 美香（かつまた みか）

富士吉田市役所の様々な部署を経て、2015 年に富士山課に配属。産業観光や文化観光を主力とした観光政策、また昭和レトロな町並みが色濃く残る飲み屋街（西裏地区）のナイトタイムエコノミー事業、キャッシュレス化事業、遊び体験を 1 年で 100 コンテンツ造成する事業などさまざまな観光事業を担当。2016 年より「ハタオリマチフェスティバル」、2021 年より「FUJI TEXTILE WEEK」の企画・運営に携わる。

FUJI TEXTILE WEEK 2025 開催概要

名 称：FUJI TEXTILE WEEK 2025

会 期：2025 年 11 月 22 日(土)～12 月 14 日(日)

休館日：11 月 25 日(火)、12 月 1 日(月)、8 日(月)

時 間：10:00～17:00 会場により 16:00 閉館(最終入場は各会場閉館 30 分前)

会 場：山梨県富士吉田市下吉田本町通り周辺地域

■チケット料金(税込)

《前売り》 一般 2,000 円 学生 1,500 円

《当日》 一般 2,500 円 学生 2,000 円

■チケット販売方法

《オンラインチケット》

公式オンラインチケット ArtSticker <https://artsticker.app/events/91412>

《紙チケット(実券)》

下吉田観光案内所(富士吉田市下吉田 1-4-21) 営業時間：9:00～17:00 定休日なし

※紙チケットは一般チケットのみの取扱い

※学生割引でご購入の方は、ご来場時に総合案内所にて学生証の提示が必要です。

※高校生以下および 18 歳未満、65 歳以上、心身に障がいのある方および付添者 1 名は無料。ご来場時に総合案内所にて学生証または年齢の確認できるもの、障がい者手帳をご提示ください。

※富士吉田市民は無料。ご来場時に総合案内所にて本人確認書類(運転免許証や健康保険証、マイナンバーカードなど)をご提示ください。

※チケット販売窓口は適宜追加されることがあります。詳細は随時公式サイトにてご案内いたします。

〔主催〕 山梨県富士吉田市

〔企画運営〕 FUJI TEXTILE WEEK 実行委員会

〔助成〕 在日フランス大使館 / アンスティチュ・フランセ

〔協賛〕 (公財)栗井英朗環境財団 / 富士急行株式会社

〔協力〕 N&A 株式会社 / FSX 株式会社 / FSX 富士株式会社 / シチズン電子株式会社 / 株式会社宗邦 / チェコセンター東京 / 富士山麓電気鉄道株式会社 / 富士吉田織物協同組合 (一財)ふじよしだ観光振興サービス / 富士吉田市商業連合会 / 富士吉田商工会議所 / (株)ふじよしだまちづくり公社 (50 音順 2025 年 11 月 5 日時点)

〔公式サイト〕 <https://fujitextileweek.com>

〔公式 SNS〕 Instagram : [@fujitextileweek](#) X : [@FUJITEXTILEWEEK](#)

出典：

*1 総務省 令和 5 年住宅・土地統計調査

*2 令和 7 年改訂 富士吉田市 空家等対策計画